

令和5年度 第2回大山崎町社会教育委員会議（報告）

I 日 時 : 令和5年8月29日(火) 午後3時00分～同4時30分

II 場 所 : 大山崎町役場 3階 中会議室

III 出席者 : 18名

○ 出席委員（9名）

○ 事務局（9名）

教育長・教育次長・学校教育課長・生涯学習課長・中央公民館長・歴史資料館長・体育館長・生涯学習スポーツ振興係リーダー・生涯学習スポーツ振興員

IV 会議名 : 令和5年度第2回大山崎町社会教育委員会議

V 内 容 : 以下のとおり

【要点】

2件の議題（(1) 令和5年度社会教育委員会議関係事業報告について、(2) 令和5年度生涯学習課関係事業報告について）について、審議のうえ、いずれも承認された。

また、事務局から4件の報告を行った。

なお、傍聴希望者はなかった。

- | | |
|-----------|-----|
| 1 開 会 | 事務局 |
| 2 教育長あいさつ | 教育長 |
| 3 委員長あいさつ | 委員長 |

※ 大山崎町社会教育委員会議運営規則による会議成立の宣言（定足数を満たす9名の委員の出席を確認）

4 議 題

※ 以降の進行は委員長が担当

- | | |
|--|-----|
| (1) 令和5年度社会教育委員会議関係事業報告について | 事務局 |
| 事務局から令和5年度（4月1日～8月15日）の町社会教育委員会議に関する事業実績について報告 | |

* 質疑応答

<乙訓社会教育委員等連絡協議会総会・研修会について>

委員

今回は大山崎町が受け持ちで、歴史資料館長に講演をお願いしました。文化財から大山崎の歴史を知るということで、60分間で行基から、瓦窯、秀吉・家康、そして大山崎山荘まで一気に話していただき、本当に良かったと思います。ただ、後で、参加された皆さんからもう少し資料館の説明が欲しかったというお話も聞きました。交流会では、歴史に全然興味がなかったという長岡京市の社会教育委員の方が、資料館長のお話を聞いて「私、これから勉強するわ」とお話されていたので、やはり乙訓社会教育委員等連絡協議会として今回の事業を実施して良かったなと感じました。

委員

私も何人かの社会教育委員の方から「大山崎町の歴史資料館に初めて入館したけれど、なかなかいいな」というお声を聞きました。蘭花譜の展示でしたが、また今後異なる展示の時に、見ていただく機会があればいいなと思いました。

<京都府社会教育委員連絡協議会総会について>

委員

社会教育関係分野の専門家の講演では、失敗してもPDCAサイクルで、次に改善できれば良いというお話でしたが、やはり人を教育したり、指導するとき問題が起こった場合は、とんでもないことに繋がりがねないし、後に尾を引く難しさがあると思います。人と接するに当たっては、慎重の上に慎重を期すべきなのですが、どうしても人間ですから、どこかで失敗もあるし、いろいろ悩みも抱えていると思います。最近では、学校の先生になる人が少なくなってきた、先生になりたくないと言う声もあるそうです。私の感覚からすると、社会的にも人間的にも、先生は憧れの的でした。今でも先生の名前を思い出すと会いたいと思うくらいです。そんな素晴らしい仕事だと思うのですけれども、先生になりたくない人がいると聞くと、難しい時代なのかなと感じます。

専門家のお話ですから、すべて理解できるわけではないのですが、聞くことによっていろんな分野のことが少しでも身につけば自分の糧になると思って聞かせていただいております。

委員

「地域と学校の協働」ということで、社会教育委員として何ができるかというのがテーマでした。社会教育委員として、まず地域の団体、人物を良く知ることが重要であるということでした。町では、社会教育関係団体交流会が1年に一度あるのですが、それだけでは顔も馴染めないと感じますので、積極的にいろんな団体と交流ができたらいいなと思います。それから、学校を良くすることは地域を良くすることであるということで、今、コミュニティスクールを立ち上げることが課題になっていますが、そのためにはやはりみんなで協力しないとなかなかで

きないという気がいたします。そのときには、社会教育委員として何らかの形で協力していかないといけないと思いました。

委員

講師の方は、資料を多く用意され、たくさん話をされましたので、頭がパンクしそうでしたが、社会教育の本質的な原理は自分ごととして受けとめることにあり、もう一つの原理は学び合うことであるとおっしゃっていました。私も常にそのことを考えながらやらないといけないなと思いました。

<京都府社会教育・生涯学習・公民館等指導者研修会>

委員

講演はちょっと難しいお話でした。人生 100 年時代になって、教育を受け、仕事に就き、退職したその後がすごく長くなっているのので、そこで「社会人基礎力」を発揮してくださいと話されました。学校における教育と同時に、人間としての芯を育む体験や経験が重要で、それが人材育成にもなるというお話でした。それから、私の苦手な分野ですが、急速な科学技術の進展についても述べられましたが、ChatGPTやVUCAなど非常に難しかったです。

講演の中で一つ覚えたのが「不易流行」という言葉で、先日の京都府公民館大会の講演でも耳にしました。私はその言葉を知らなかったのですが、いつまでも変化しない本質的なものがありながら、新しいものを入れていくという意味だそうで、最近時々耳にするので意識しています。

委員

私も難しい話だなと思って聞いておりました。日本語も難しいし、さらにカタカナの言葉がたくさん出て次々に進むので大変でした。日本の現状を知る上で、特に今後の生涯学習・社会教育を考える上で押さえておくべき主な動向として話されましたが、いくつかは分かりましたが、あとは専門家でないと分からないのではないかと思う内容でした。その中で、2022 年度時点で日本の生産年齢人口の割合が 59.53%という資料を示されましたが、そこまで減少しているのかと思いました。今は高齢者が多く働いておられて、ヨーロッパ等から来た方は「日本はどうして高齢者が働いているのか」と不思議に思い必ず質問するそうです。今年、フランスでは年金の支給開始年齢が 64 歳に引き上げられることに反対して 2 か月近くストライキが実施されたのですが、そのような国の方からすると 70 歳以上になっても働いているのが信じられないのだそうです。

その他、課題解決に至る仕組みが必要だと話されたことはその通りだと思うのですが、その手がかりになることはどんなことなのだろうなと考えながら聞いていて、私自身の微力を感じました。

◎各委員が承認

(2) 令和5年度生涯学習課関係事業報告について

事務局

事務局から令和5年度（4月1日～8月15日）の生涯学習課関係の事業実績について報告

* 質疑応答

< 大山崎町バスケットボール協会の立ち上げについて >

委員

8月19日土曜日に町バスケットボール協会の立ち上げ行事に寄らせていただいたのですが、今すごいブームだそうで、小学生50人近くが本当に生き生きと練習していて、良かったと思います。立ち上げにはいろいろと大変だったと思いますが、今後どうぞよろしくをお願いします。

< 乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会について >

委員

7月9日に乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会を観に行かせていただきました。中学生が一生懸命練習した成果を聴かせていただいて、とても良かったと思います。中でも、大山崎中学校吹奏楽部が人数も多くて演奏も一番良かったです。この一生懸命に演奏している生徒たちのどれくらいが音楽の道に進むのかなと思いつつ聴いておりました。

< 関係団体の連絡先等について >

委員

町バスケットボール協会や本日の資料に載っている競技団体、協議会の方に連絡を取るために、町ホームページから調べようとしたのですが、なかなか見つかりませんでした。町に在住の方々が中心に子どもたちのために立ち上げておられるのだと思うのですが、どうやったらそういう方々と連絡、コミュニケーションをとることができるというところが少し分かりづらかったので、他市のホームページ等を参考にされ、私たち社会教育委員に限らず、一般の方にとっていろいろな情報を分かりやすく整理いただければと思います。

町広報誌やホームページだけではなく「窓口」になるところを整理していただけたら、「私もどこかの団体へ入ってみようかな」という気持ちになるのではと思いますので、よろしくをお願いします。

事務局

競技団体等の関係者の連絡先につきましては、体育館で管理しておりますが、個人情報であるため、それぞれの競技団体等の代表者にもし見学等の希望があれば連絡先を教えてよいか尋ね、教えてもよい旨確認している競技団体等もあります。その場合は、体育館にご連絡いただければ、競技団体等とつなげていただ

く形にしております。

<ときめきチャレンジ推進事業「バルシューレ体験教室」について>

委員

7月15日土曜日のバルシューレ体験教室について、「バルシューレ」というのが聞きなれないのでどんな教室でしたか。また、第二大山崎小学校で開催されたので、やはり同校区からの参加児童が多かったですか。

事務局

手元に資料がなく、小学校区別の参加児童数を把握しておりませんが、参加児童10名のうち低学年が7名、高学年が3名でした。講師は以前ときめきチャレンジ推進事業のバスケットボール体験教室で講師を務めていただいた方をお願いしましたが、ボールを使った遊びに親しむという形で、子どもたちにとっては自分がどんな球技に向いているのか知ることができる入口になるような教室でした。

<宝積寺の十一面観音立像の修理について>

委員

宝積寺の本堂を、5、6年前に訪ねたときに柱にアライグマと思われる爪痕がありました。京都のあちこちのお寺にもアライグマがいて、天井裏に住み着いて糞尿などによる被害もあるそうですが、大山崎町は大丈夫ですか。以前、捕獲等されたこともあったように思うのですが。

事務局

アライグマについては、以前、本堂のみならず三重塔にも登っていた状況がありましたが、ここ最近は出没していないと伺っており、現在はいないのかなと思っております。ただ、他の動物が出入りしている様子はあるため、現在調査しているところです。少しでも隙間があると出入りするため、そこをどう塞ぐかということに加え、お寺であり基本的に殺生はできない場所でもありますので、その辺りは大変ご苦労されていると伺っております。

委員

京都市内のお寺も文化財を守るために積極的に対策されるところがあれば、わかっているながら一切かかわるまいとするお寺もあって、放っておいたらますます増える懸念があります。アライグマは人が寝静まった夜に活動するので、人目に触れにくいのですが。

<歴史資料館の来館者数について>

委員

コロナ禍の後、歴史資料館でも来館者が増えていますか。

事務局

増えておりますが、コロナ禍前までの状況にどこまで戻すことができるかというのが課題になっています。どうしても団体来館者は減っていますので、コロナ禍を経て団体旅行のあり方も議論されている中で、町から団体来館の機会を創り出すことも含めていろいろ模索しているところです。

◎各委員が承認

5 その他

事務局

※ 以降の進行は事務局が担当

事務局から次の4件について報告

- ① 町議会定例会（6月）における一般質問・答弁について（生涯学習課関係）
- ② 大山崎町教育委員会事業報告書（令和4年度対象）について
- ③ 町社会教育関係団体補助金の交付について
- ④ 町民体育祭の開催について

* 質疑応答

<町議会定例会（6月）における一般質問・答弁について（生涯学習課関係）>
委員

放課後オープンプレイス事業について町議会で通らなかったということでしたが、どのような形で提案され、どうして通らなかったのかももう少し詳しく聞かせていただけますか。

事務局

町議会定例会（6月）に補正予算案として新しく放課後オープンプレイス事業を実施するために必要な予算を提案させていただいたのですが、審議に先立って行われる一般質問において、事業内容について質問をいただき、それに対して答弁いたしました。その後、補正予算案の審議が行われました予算決算常任委員会の場で、特に児童を対象とする事業であるのに安全確保策が十分ではないというご指摘を受け、事業を実施することが困難になりました。

委員

私の勉強不足だと思いますが、どういう事業内容だったのでしょうか。

事務局

事業の内容といたしましては、放課後に例えば小学校の空き教室を開放し、そこに有償ボランティアの方を2名ほど配置いたしまして、子どもたちを見守るという事業です。放課後児童クラブとは別の放課後子ども教室という形で、放課後に教室等で過ごす児童を見守ることにより、放課後の子どもたちの居場

所づくりを行うという事業を提案しましたところ、先ほど説明させていただきました通りの結果に至ってしまったというところです。

委員

学童保育（放課後児童クラブ）とは違うということですね。何かを教える教室というわけでもないのですか。

事務局

そもそもは、こども家庭庁が、放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的に運営することによって、放課後の子どもの受け皿を作っていこうと進めているものです。本町の放課後児童クラブは入会児童数が過去最多になり、キャパを超えるような状況がありますので、放課後の児童の受け皿として放課後子ども教室を充実させる動きの中で、放課後オープンプレイス事業を企画したというのが経緯です。

放課後子ども教室は、社会教育委員の皆様にもご協力いただき、土曜日を中心ときめきチャレンジ事業として実施しておりますが、こちらの平日事業を充実させ、放課後の教室等を開放して、例えば自習できるよう、あるいは定期的に体験教室を開催して、放課後児童クラブとは別に子どもたちがいろいろな体験や学習ができる場づくりを行おうというのが事業趣旨です。

委員

今、内容を聞けば、子どもたちにとっていい事業なのかなと思うのですけれど、なぜ反対されたのかわからなかったのです。経費面でしょうか。

事務局

経費面というより安全面で指摘を受けました。例えば体験教室であれば事前に何名参加か把握し、児童の行動についてもある程度管理できるのですけれども、平日の放課後を過ごす場として、不特定多数の1年生から6年生の子どもたちが出入り自由で、入室も退室もいつでもいいよという形とし、放課後に自分たちだけで遊んでいる児童が、大人の見守る目のある場所で過ごすことができるように提案しました。その点について、町として実施するのであればもう少し安全を確保すべきであるという立場から、「最低限の安全管理が必要ではないか」、「子ども同士喧嘩したらどうするのか」、「学校からどのように引き継いでいくのかもっと詰めないといけない」といったご意見や懸念を示され、「まだ煮詰まっていないのではないか」というようなご指摘を受けました。そこに対して、町教育委員会としてはまず始めて、事業を行いながら体験教室なども盛り込んで肉付けをしていくという形で考えている旨説明させていただいたのですが、「それができてから始めるべきではないか」というご意見等をいただきましたので、町教育委員会としてもう一度提案できるように内容を練り直しているところです。

<その他>

社会教育委員間で、小中学校の近況や児童・生徒の様子について、情報共有・意見交流が行われました。

6 閉会あいさつ

副委員長